働く者の団結で……いのちとくらし……権利と平和を守ろう

第61回大牟田地区統一メーデー

「国内炭守れ」「産炭地域を守る石炭制策確立」「裁判闘争勝利」のゼッケンをつけて参加

「晴れた五月の……」という歌いなれたメーデー歌の歌詞のように、今年のメーデーは五月晴れの良い天気で、暑いほどだった。

われわれ〝モグラ〟には、日光消毒みたいなものだが、やはりなかなかきびしい。

集会もこじんまりしたもので、昔の感じはないが、後方に青空市場のテントが並び、今年のメーデーの目玉である福引きも、楽しみは最後にという配慮のゆえかデモ行進のあと。それなりの工夫がしてあったようだ。

われわれ老兵（？）が青年のころ参加したメーデーは、会場は人、人、人で埋まり「三池と安保」という緊迫した政治的状況のもとで、人びとの意識は高揚し、熱気で満ち溢れていたのを思い出す。

時代の流れではあろうが、今一たび、会場が人びとで埋まり、熱気で充満するのを夢みるのは私一人ではあるまい。

（三分会職場新聞『やま』五月八日発行から）

姿見

安心して働きたい

大牟田ブロック 匿名希望

第六十一回大牟田地区メーデーには、汗ばむ陽気のなか二千人の労働者が集まりました。

「働く者の団結で、いのちとくらし、権利と平和を守ろう」とスローガンにありました。これは、炭鉱労働者にとっても切実な要求です。

清算事業団を解雇された国労の仲間からの訴えもありましたが、家族にとってもこれからの生活を考えると不安と怒りでいっぱいだと思います。

さる三月に、三池主婦会でも抗議の座り込みやカンパの取り組みなどをして激励しましたが、地労委が出した「解雇は不当」という命令を守らせるためにたたかっている、国労の仲間のみなさんと連帯してたたかっていかなければならないと思います。

私は、昨年の十月から職業安定所の紹介で、中小企業の金物を扱う会社で働いていますが、安定所では軽作業といわれた内容とは違って、肉体労働が多く、職場でも腰痛で困っている人がいます。

五十歳近くなると、仕事をしようにも思うような仕事もないので、自己防衛をしながらなんとか働いています。

職場の人たちも、どこか良い仕事があったらといつも話をしていますが、みんながまんして働いているのだと思います。

こんな状態がいつまでも続くとしたら大変です。

労働者が安心して働き、幸せになるためには、いまの自民党の政治を変える以外にはないと思います。福岡県では参議院議員の小野明さんが亡くなられ、六月に補欠選挙がおこなわれます。

来年は、福岡県知事選挙や統一地方選挙の年になりますので、この補欠選挙は大変重要なたたかいです。

私も、小さな力ですが、職場の仲間に訴えていきたいと思っています。

外国の石炭政策「知らぬ、存ぜぬ」

不当解雇訴訟、第八回公判の反対尋問から

第八回口頭弁論での原告代理人による、被告会社側の久保氏に対する反対尋問は、第八次石炭政策が決定されるまでの状況判断、政策実施後の会社の対応がきわめて曖昧であり、適確な対策や積極性に欠け、政策に追随的な態度であったことが浮き彫りになり、また、基準解雇者や希望退職者に対する就職対策、さらに地域対策の弱点が明らかになりました。

とりわけ、冒頭部分での「知らぬ、存ぜぬ」ぶりは徹底したもので、それが事実なら経営者としての資質が問われます。都合の悪いところは「知らぬ、存ぜぬ」で押し通すのが本音でしょう。そこで、その一部を調書から紹介します。

◎ まず石炭政策の関係なんですけれども、イギリスの方でどういった石炭政策がとられているのかというのは、ご存じですか。

◇ いや、承知いたしておりません。

◎ 全然、ご存じないですか。

◇ はい。

◎ 経営形態についても、ご存じないですか。

◇ 経営形態は、国営でやってるように聞いております。

◎ 離職したあとの雇用創出の関係については、全然おわかりにならないですか。

◇ 存じません。

◎ フランスの方は、どうですか。

◇ 存じません。

◎ 経営形態もご存じないですか。

◇ 経営形態も存じません。

◎ 地域振興対策、どういったものが行われているのかということも、ご存じないですか。

◇ 存じません。

◎ 西ドイツの方は、どうですか。

◇ 西ドイツも存じません。

× ×

◎ そうすると、いまのお話しですと、イギリス、フランス、西ドイツでどういった政策がとられているかというのは、ほとんどご存じないということですね。

◇ はい、存じません。

× ×

◎ 今挙げた三国で、エネルギーセキュリティーという観点から、強く国内炭を保護するというのが基本的な政策じゃないんですか。

◇ いえ、存じません。

◎ そういうのも、全然ご存じないですか。

◇ はい。

◎ そういうのを調査しようというのは、会社としては思わなかったんですか。

◇ ええ。国情が違いますし、それがすぐ日本の石炭産業の政策に反映するというふうには理解してないものですから、あまり勉強もしておりません。

◎ よいところの石炭政策というのを調査をして、いい部分というのは取り入れようと、あるいは日本の政府に働きかけていこうと、そういったことはお考えにならなかったんですか。

◇ ええ、考えませんでした。

× ×

◎ 中曽根首相、当時ですけれども、昭和六十年十月下旬頃、訪米しましたね。

◇ いや、ちょっと記憶にありませんけど。

◎ そのときに貿易摩擦が大きな問題となって、アメリカから石炭を輸入するという約束をして帰ってこられたんじゃないですか。

◇ いや、存じません。

◎ そういうのを全然興味をもたれませんでしたか。

◇ 何か新聞で、西海岸のアメリカの炭を入れたらどうかという話がちらちらあったのは、読んだ記憶がある程度でございます。

◎ そういうことにあんまり興味をもたれないですか。

◇ あまり持っておりません。

× ×

あほンだら

敬弔

古賀政明さん（11・9CO患者・69歳）転落事故で四月十四日早朝、久留米大学病院で死去、三池郡高田町江の浦一一三四。遺族は長男政一さんほか。

前田フサエさん（四山災害の遺族、11・9に準ずる取扱い）事件にまきこまれて四月二十九日夜死去。荒尾市大平町三丁目。遺族は長男新三さんほか。

お二人の死去に当たり心から哀悼の意を表します。

FOCUS 焦点 Q&A

小選挙区制

狙いは自民政権の半永久化

Q 小選挙区制導入の是非が論議になっているね。

A 四月末に政府の第八次選挙制度審議会が「小選挙区比例代表並立制」を答申。それを受けて、海部首相は今年の十一月をメドに「不退転の決意」で成案をまとめると語っているよ。

Q その中身は？

A 今の衆院の中選挙区制をやめ、定数を五百一に減らし、うち三百一議席を当選者一人の小選挙区で選び、残り二百議席を全国十一ブロックの比例区で選出するしくみだ。

Q どうして今、選挙制度を改革する必要があるのか？

A リクルート事件や金権選挙などに国民の批判が強まり「政治改革」は避けられなくなってきた。自民党はその声を逆手に取り、政治腐敗の原因はカネのかかる選挙制度にあるのだから、カネのかからない制度に変える必要があるという理屈だね。

Q 本当にカネのかからない制度になるのか？

A まったくうそ。そもそも金権選挙と選挙制度とは関係ないことだ。どんな選挙制度になってもカネにしか頼れないやつは使う。自民党の中からも「政治にカネがかかるのはひとつの活力だ」なんて声まで飛び出す始末。現に、鹿児島県の奄美群島区は定数一の小選挙区だが、ここの金権、買収選挙は有名だよ。

Q 政権交代をしやすくする制度だともいわれているね。

A それもごまかしだ。各新聞社の試算では、自民党は四割の得票で八割の議席を独占することができるといっている。例えば、読売新聞が二月の総選挙結果に基づいて試算したところ、自民党は三百九十議席で断トツだった。政権交代どころか、自民党政権の半永久化が狙いだよ。

Q でも、野党だって一党で四割を取りさえすれば、政権獲得も可能ではないか。

A 確かにそうだ。しかし、政権交代がしやすいかどうかは別問題。大政党には実力以上に議席を与え、小数党は切り捨てるという不公正さこそ問題だ。選挙制度は、民意を公正に議席に反映させることが根本であり、「政権交代の可能性」を民意に優先させることがそもそも間違いだよ。